

新之助情報 No. 3

出穂期は平年並の見込み
葉色を確認し適量の穂肥を施用

1 現在の生育状況（7月20日調査）

指標値と比べ、草丈「やや長い」、茎数「少ない」、葉数「並」、葉色「並」

	移植日	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
本年値	5月17日	68	469	11.9	34.3
指標値	—	65	530	12.2	34.0
指標値比・差	—	105%	88%	-0.3	+0.3

※本年値は普及センター調査5ほ場の平均値。施肥は全て分施体系。

2 出穂期予測と穂肥施用のめやす

出穂期 予測	穂肥の施肥時期・生育状況のめやす（出穂前日数）		合計 窒素量
	1回目	2回目	
8/12	7/22～7/25(21～18)	7/31～8/2(12～10)	2～3 kg/10a
	幼穂長 0.5～1cm	止葉と次葉の葉耳が並んだ頃	
	葉色 SPAD値 33～36	葉色 SPAD値 33～36	

【分施体系施肥】

- ・1回当たりの穂肥施用量は、窒素成分で0.5～1.5kg/10aとする。
- ・出穂3日前（2回目の穂肥施用7日後以降）での上位第2葉の葉色値が34未満で、その後も高温が続く予報の場合は、3回目穂肥を窒素成分で1kg/10a施用する。

【基肥一発施肥】

- ・出穂期の葉色値が34を下回ると予想される場合は、出穂10日前～3日前頃に追加穂肥を施用する。窒素施用量は1～1.5kg/10aの範囲で、葉色値と追肥時期を考慮して決定する（玄米タンパク質含有率6.3%を超えないよう注意）。

3 病虫害対策

(1) いもち病

- ・葉いもちが確認されたほ場は直ちに粉剤または液剤で防除を行う。
- ・穂いもちは、出穂20日前頃に水面施用粒剤、または出穂期に液剤か粉剤で予防防除を原則として実施する。葉いもちが発生したほ場は必ず穂いもち防除を行う。

(2) 斑点米カメムシ

- ・畦畔雑草地等で多数のカメムシが確認されている。斑点米発生防止のため、穂揃い期に薬剤防除を行う。

※農薬の使用にあたっては、ラベルに記載の使用基準や注意事項等をよく読み、遵守しましょう

～ 農作業時の熱中症対策は万全に！ ～